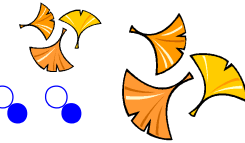




# 雲の上にはいつも...



【No.8】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

## 人間は、右の手で戦争をして人を殺し、左の手で赤十字を作り人を助ける。 あなたはその両手で何をしますか？

あたたかな立冬の朝を迎えました。今は昔のことになりますが、2005年に愛知県で開催された『愛・地球博』。その中の「国際赤十字館」シアターの入り口に書かれていたのがこの言葉です。（※「赤十字」：戦争や天災時における傷病者救護活動を行う人道支援団体「赤十字社」のこと）目を覆いたくなる映像とMr.Childrenの曲が流れるこのパビリオンは、当時多くの人を招き入れました。（入られた保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか）



「右の手で人を殺し、左の手で人を助ける…あなたはその両手で何をしますか？」すぐに答えることができない、安易な答えを許さない厳しさを、この問いは持っています。さあ、自分の両手を見てみましょう。この手は、どんなことに使ったら心からの満足が味わえるのでしょうか？ 両手だけではありません。例えば目は、偏りのない温かな見方もできれば、見て見ぬふりをしたり、見る前から形や色を決めつけた見方もできます。口から出る言葉は、傷ついた相手を励ますこともできれば、逆により深く傷つけることもできる。生活をより豊かで便利なものにするためのスマホという道具も、使い方一つで犯罪につながったりもします。

子どもたちが大人になる未来が、より生き生きとした明るさに満ちた社会となるように、子どもたち自身が大切なことを考え、学んでいくことはもちろんですが、私たち大人も、そんな未来の社会づくりに無関係ではありません。

今年、ノーベル医学・生理学賞を受賞した本庶佑（ほんじょ たすく）先生は、「物事に不可能はない。必ず道がある」との思いで やってきた」とおっしゃっていました。

子どもたちの未来のために、この両手で何をしますか？「どうせ……」などといった言葉を使ってあきらめるのではなく、本庶先生のように「必ず道はある」と行動し続けることが大切なのでしょう。わが子や自分の幸せにつながるために。両手や、目や口や道具を使って、心からの満足のために……。

## 行動すれば幸せが訪れるとは限らない。しかし、行動のないところに幸せは生まれません。

これは19世紀のイギリスの政治家ディズレーリの言葉です。勇気をもって前に進まなきゃ未来は変わらないし、幸せも訪れない。行動すれば「つながり」が生まれます。その「つながり」をつないで、また つないで……。うん。そうやっていくと、何かが生まれそうじゃないですか！

## ありがたいですねえ。PTA・地域が いっしょになって子どもを育てる...



今週10日(土)に『オータムフェスタ』が迫ってきました。PTAが中心となり、子どもたちと楽しむ。朝の9時から午後1時半まで、いろんなコーナーで遊びましょう！お母さんやお父さんだけでなく、多くの地域の方も関わっていただいての催しです。

また、18日(日)は『藤城学区 総合防災訓練』。4年生が児童スタッフとして活動します。この「児童スタッフ制度」は、京都市はもちろんのこと、全国的にも非常に珍しい取り組みです。藤城の子どもたちは、このような様々な取り組みを通して力をつけていくのでしょう。

開校から33年目。未来を創っていくのは、まさに目の前の子どもたちです。「教育の城」たれとの熱い思いで開校した藤城小学校。みんなで創り上げていきましょう。藤城小学校は「みんなの学校」です。

## 「本など読んで、なんになる?」?

「読書離れ」。藤城小学校も例外ではありません。誰かがこんなふうにあなたに言ったら、どう返しますか？

- 考えたことがありますか じぶんにできることを
- 目は 世界を しっかりと見ることができる
- 耳は どんなつぶやきも ききとることができる
- 口は 見たこと聞いたことを 伝えることができる



……(中略)……

- 頭は じぶんにできることを 考えつることができる
- 心は あいての気持ちを 感じとることができる
- 考えてみませんか じぶんにできることを



これは2学期の始業式で子どもたちに読んだ『じぶん』というとても短い絵本の中の言葉です。1分もあれば読めちゃうような、小ぶりの薄いこの絵本。しかしながら、読んだあとは、1分どころか長〜い間、頭の片隅に残っちゃう。

